

2015 年度 定例総会議事録

標記の総会が 2015 年 5 月 23 日（土）16 時 45 分より東京都立川市統計数理研究所第会議室にて樋口会長の議長の下開催された。出席 27 名，委任状により表決権を委任した者 100 名（議長委任 78 名，氏名のみ 22 名）で，出席者合計が，3 月 31 日現在の正会員数 501 名の 10 分の 1 以上となり会則第 14 条により総会は成立した。以下の事項が報告・承認された。

I. 2014 年度 事業報告（2014.04.01～2015.03.31）

1. 概況

2014 年度は，樋口 知之 会長・水田 正弘 副会長をはじめとする 15 名の理事，および，樺 広計，渡辺美智子の両監事の体制で活動した。

財務状況は，機関誌発行が 1 度だったことと年会在年度内に 2 回行われたことによる収支の変動を除けばほぼ例年通りであった。

2014 年度中の会員の入会，退会状況は，入会者数 13 名（内訳：正会員 9 名，学生会員 3 名，機関購読（団体）1 件），退会者数 33 名（内訳：正会員 25 名，学生会員 2 名，機関購読（団体）6 件）であった。

この結果，会員数は 2014 年度末現在で 501 名である。内訳は正会員 478 名，学生会員 23 名，賛助会員 6 社，機関・団体購読は 42 件である。正会員と学生会員を足した会員数の推移は次のとおり。会員増への方策の検討が必要である。

	2009 年度末	2010 年度末	2011 年度末	2012 年度末	2013 年度末	2014 年度末
会員数	553 名	550 名	547 名	532 名	526 名	501 名

2. 総会の開催

2014 年 5 月 22 日に総会を統計数理研究所 大会議室（立川市）で開催した。

3. 評議員会

2014 年 5 月 22 日に定例評議員会を統計数理研究所 会議室 1 で開催し，総会に付議する事項等について審議した。

4. 理事会

対面理事会を 2 回（9 月，3 月），理事懇談会（5 月），メール審議による理事会を 1 2 回，計 1 4 回理事会を開催し，学会の運営に関する事項，会員の入退会に関する事項，学会などの後援に関する事項について審議した。

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.43 の No.1-3（3 号の合本）を発行した。掲載原稿は，研究論文 2 編，その他 1 編である。総ページ数の推移は次のとおり。

	Vol. 37	Vol. 38	Vol. 39	Vol. 40	Vol.41	Vol.42	Vol.43
総ページ数	150 頁	172 頁	100 頁	209 頁	152 頁	195 頁	57 頁
論文数*	7	8	5	11	7	10	3

*掲載された記事の数（総合報告，研究論文，覚え書き，統計計算，フォーラム）

6. 応用統計学会論文賞の授与

「応用統計学」に掲載された論文から選考し，以下のように学会論文賞を授与した。（*が受賞対象者）

優秀論文賞

*佐藤 健一・*富田 哲治, 混合効果モデルを用いたセミパラメトリックな変化係数の推測について, Vol.42(1), 1-10.

奨励論文賞

(対象年齢の投稿者なし)

7. 年会

今年度は5月に2014年度年会として, 3月に2015年年会として, 2回開催した.

2014年度年会を2014年5月22日~23日に統計数理研究所(立川市)で開催した. 応用統計学会・日本計量生物学会主催, 統計数理研究所共催による, チュートリアルセミナー「ビッグデータと秘匿化の諸問題」として3件(星野伸明氏(金沢大学), 花岡悟一郎氏(産業技術総合研究所), 佐藤慶浩氏(日本ヒューレット・パカード)), 一般講演7件, 特別講演2件, ポスター発表10件あった. 優秀ポスター発表として以下の4名を選出した. (*が受賞対象者)

*三枝 祐輔・田畑 耕治・富澤 貞男(東京理科大学), 正方分割表におけるf-ダイバージェンスに基づく準対称モデルを用いた対称性の分解について

*安藤 宗司(東京理科大学)・山本 紘司(大阪大学)・富澤 貞男(東京理科大学), 順序カテゴリ正方分割表における累積確率に基づくモデルの分解

*八木 文香・瀬尾 隆(東京理科大学), 3-step 単調欠測データにおける平均ベクトル間の検定

*小林 史明(総合研究大学院大学・第一三共)・黒木 学(統計数理研究所), 自然な因果効果を用いた治療効果に対する代替性の評価尺度

2015年年会を2015年3月13-14日に京都大学医学部 芝蘭会館 稲盛ホール(京都市)で開催した. 応用統計学会・日本計量生物学会主催, 統計数理研究所共催による, チュートリアルセミナー「医薬品安全対策への電子診療情報の活用~MIHARI Project」(講師: 竹内由則(医薬品医療機器総合機構), 山口拓洋(東北大学))があった. また, 一般講演8件, 特別講演2件, ポスター発表10件あった. 優秀ポスター発表として以下の2名を選出した. (*が受賞対象者)

*佃 康司(総合研究大学院大学), The Ewens sampling formula に関する新たな汎関数中心極限定理

*笹井健行(東京大学), 宮部賢志(明治大学), 竹村彰通(東京大学), Erdos-Feller-Kolmogorov-Petrowsky Law of the Iterated Logarithm for Self-Normalized Processes: a Game-Theoretic Approach

2014年度年会の参加者は106名(正会員(後援学会員を含む)54名, 学生(学生会員を含む)46名, 非会員6名)であった. 2015年年会の参加者は64名(正会員(後援学会員を含む)41名, 学生(学生会員を含む)19名, 非会員4名)であった. 参加者数の推移は次のとおり.

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年
参加者数	91名	126名	125名	122名	105名	106名	64名

※ 次回の年会は2016年3月に2016年年会として開催する予定.

8. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を2014年9月13日~16日に東京大学 本郷キャンパスで開催した(共催: 応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会).

参加者総数 1034 名，発表件数 318 件（取消を除き，特別セッションでの報告を含む）で，この内，企画セッション 21 件，コンペセッション 28 件であった。

また，チュートリアルセミナー（参加 223 名），市民講演会が行われた。本学会の企画セッションとして，応用統計学会論文賞講演を行った。

大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおり。

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
大 会	900 名	821 名	824 名	979 名	1034 名
チュートリアルセミナー	288 名	147 名	141 名	238 名	223 名

9. 関連学会等との後援・協賛事業

今年度に後援・協賛した行事は次のとおり。

- ・第 2 回 データビジネス創造コンテスト デジタル・ネイティブ世代による自治体政策の変革 ～ Digital Innovators Grand Prix (Dig) powered by Accenture（後援）
- ・第 10 回 TRIZ シンポジウム 2014（NPO 法人 日本 TRIZ 協会，協賛）
- ・第 17 回情報論的学習理論ワークショップ（IBIS2014，協賛）
- ・1st シンポジウム ～実務者が集うデータサイエンスの最前線～（データサイエンティスト協会，後援）
- ・第 1 回ビッグデータの機械工学へのインパクトを探る講習会（日本機械学会，協賛）

10. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し，各委員会に出席するなど協調を行った。

(1) 統計関連学会連合

理事会（樋口知之 会長，水田正弘 副会長），

事業委員会（鎌倉稔成 会員），

統計教育推進委員会（委員長：田栗正章 会員），

教材開発委員会（委員長：中西寛子 理事，藤井良宜 会員，渡辺美智子 監事，南美穂子 会員）

資料 1-4

(2) 統計関連学会連合大会

2014 年度大会 プログラム委員会（竹内恵行 前理事，渡辺美智子 前理事），運営委員会（西山貴弘 会員）

2015 年度大会 プログラム委員会（佐藤忠彦 理事，福水健次 理事），運営委員会（本橋永至 理事）

(3) 横断型基幹科学技術研究団体連合

代議員（中西寛子 理事），理事および企画・事業および総務・会員委員会（岩崎学 会員）

(4) 統計教育大学間ネットワーク

質保証委員会（田栗正章 会員，福井武弘 会員），カリキュラム策定委員会（中西寛子 理事，藤井良宣 会員，南美穂子 会員）

(5) リスク研究ネットワーク

機関メンバーとして参加

(6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）

後援を行うと共に，各種委員会運営にも協力

11. 大内賞候補者の推薦

2014 年度の大内賞候補者を理事会として承認し，学会から推薦した。

12. ホームページおよびメーリングリストの充実

ホームページを逐次更新し、学会員への情報公開を円滑にした。また、メーリングリストによる情報公開を行った。

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください。

II. 2014年度決算報告

応用統計学会 2014年度会計理事報告資料

(自 2014年4月1日～至 2015年3月31日)

1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	2,465,000	2,377,500	87,500
(1) 正会員	2,300,000	2,200,000	100,000
(2) 学生会員	45,000	57,500	▲ 12,500
(3) 賛助会員	120,000	120,000	0
2. 雑誌売上収入	218,400	222,600	▲ 4,200
(1) 購読料収入	218,400	222,600	▲ 4,200
(2) バックナンバー売上	0	0	0
3. 広告料	30,000	90,000	▲ 60,000
4. 掲載料・別刷り・カラー印刷収入	150,000	450,000	▲ 300,000
5. 年会等関係収入	691,463	720,000	▲ 28,537
(1) 年会収入	405,000	290,000	115,000
(2) チュートリアル収入	286,463	430,000	▲ 143,537
(3) ワークショップ収入	0	0	0
6. 雑収入(著作権料・利息等)	94,250	70,000	24,250
当期収入合計	3,649,113	3,930,100	▲ 280,987
前期繰越金	4,611,199	4,611,199	0
収入合計	8,260,312	8,541,299	▲ 280,987

・5(1) 年会収入・・・2014年(242,000円), 2015年(163,000円)

(2) チュートリアル収入・・・2014年(212,638円), 2015年(73,825円)

・6 雑収入・・・著作権料・利息等(7件)69,754円

会費収入に関する補足

2015年3月31日現在会員501名

内訳 正会員 478名

学生会員 23名

正会員収入内訳

2013年度まで	210,000円 (11名)	2009年-2013年度1名, 2010年-2013年度2名, 2011年-2013年度2名, 2012年-2013年度6名, 2013年度11名
2014年度から	1,310,000円 (262名)	
2015年度から	775,000円 (155名)	
2016年度から	5,000円 (1名)	

学生収入内訳

2013年度まで	7,500円 (2名)	2012年-2013年度1名, 2013年度1名
2014年度	27,500円 (11名)	
2015年度から	10,000円 (4名)	

会費納入率 91.52% (前年度に納入された902,500円を含める)
 機関購読数 42件

2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	894,841	1,570,000	△ 675,159
(1)印刷費	579,960	1,050,000	△ 470,040
(2)校正費	150,000	150,000	0
(3)通信・発送費	164,881	370,000	△ 205,119
2. 年会等関係費	1,042,527	400,000	642,527
(1)年会支出	812,751	250,000	562,751
(2)チュートリアル支出	229,776	150,000	79,776
(3)ワークショップ支出	0	0	0
(4)共催国際会議支出	0	0	0
3. 管理費	1,051,905	1,103,785	△ 51,880
(1)事務委託費	750,000	750,000	0
(2)消耗品費	65,317	120,000	△ 54,683
(3)会議費	91,823	80,000	11,823
(4)雑費	83,133	80,000	3,133
(5)名簿作成費	0	0	0
(6)事務合理化費	7,560	20,000	△ 12,440
(7)選挙費	54,072	53,785	287
4. 役員旅費補助	0	150,000	△ 150,000
5. 関連学会協調事業費	80,000	80,000	0
(1)関連学会年会費	80,000	80,000	0
(2)連合大会	0	0	0
6. 学会賞	46,950	50,000	△ 3,050
当期支出合計	3,116,223	3,353,785	△ 237,562
収支差額(次年度繰越金)	5,144,089	5,187,514	△ 43,425
支出合計	8,260,312	8,541,299	△ 280,987

- ・1(1)印刷費・・・「応用統計学」(Vol.43, No1&2&3), 電子ジャーナル作成料 (Vol.41, Vol.42)
- ・2(1)年会支出・・・2014年度(322,900円), 2015年度(489,851円)
(2)チュートリアル支出・・・2014年度(212,776円), 2015年度(17,000円)
- ・3(6)事務合理化費・・・ドメイン名登録更新料

2015年度への繰越金の内訳

項目	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
銀行預金	1,196,172	341,659
郵便貯金	839,471	839,672
定額貯金	500,000	500,000
郵便振替	2,061,278	3,462,758
現金	14,278	0
合計	4,611,199	5,144,089

会計監査報告書

応用統計学会殿

応用統計学会会則に基づき、2014年4月1日より2015年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2015年5月1日

監事

橋 広計
渡辺 美智子

III. 2015 年度 事業計画 (2015. 04. 01～2016. 03. 31)

1. 機関紙の発行

「応用統計学」Vol. 44 を発行する。同時に投稿数を増やすために具体的に行動を起こす。

2. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞(優秀論文, 奨励論文)を授与する。また年会のポスターセッションの中から, 優秀ポスター発表賞を授与する。各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う。

3. 年会の開催

今年度の年会は「2016 年年会」として 2016 年 3 月 17～18 日に統計数理研究所(立川市)にて開催する予定である。

4. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

5 月 23 日(土)に統計数理研究所(立川市)において標記セミナーを, 統計数理研究所の後援で開催する。テーマは「社会科学型ビッグデータにおける応用統計学の活躍の場拡大を目指して」とし, 樋口 知之 氏(統計数理研究所 所長, 会長), 安宅 和人 氏(ヤフージャパン(株), 本学会理事), 照井 伸彦 氏(東北大学大学院経済学研究科 教授), 椿 広計 氏((独)統計センター 理事長, 本学会監事)の講演を行う。

5. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2015 年度統計関連学会連合大会(応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が共催)が 2015 年 9 月 6 日～9 日に岡山大学で開催される。企画セッションとして当学会は「応用統計学会シンポジウム: 自然科学へのデータ駆動型アプローチ」及び「応用統計学会 学会賞受賞者講演」を企画運営する。

6. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する。

7. 学会員への情報公開

ホームページやメーリングリストを活用して, 学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う。

8. 会員資格の検討

会費未納者への対応, シニア会員等の会員資格の検討に一定の結論を出す。

9. 広報活動

会員の募集のための広報活動を, 連合大会や適切な媒体を使って行う。

10. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に, その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 統計関連学会連合
- (2) 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)
- (4) 統計教育大学間連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定(一般財団法人 統計質保証推進協会)
- (7) データサイエンティスト協会

1 1. 理事会, 評議員会, 総会の開催

5月23日(土)(フロンティアセミナー開催日)の午前中に, 理事会, 評議員会を開催し, フロンティアセミナー開催後に総会を開催する. また, 9月の連合大会開催時, および3月の年会開催時に理事会を開催する予定である. またメールによる理事会は必要に応じて開催する.

1 2. 応用統計学会役員選挙

2016・2017年度の応用統計学会 会長, 副会長, 評議員の選挙を行う.

IV. 2015年度決算報告

(別ファイル「2015 予算(応用統計原稿).pdf」をここに入れる)

応用統計学会 2015年度予算案

(自 2015年4月1日～至 2016年3月31日)

1. 収入の部

勘定科目	2014年度予算	2014年度実績	2015年度予算
1. 会費収入	2,377,500	2,465,000	2,322,500
(1) 正会員	2,200,000	2,300,000	2,150,000
(2) 学生会員	57,500	45,000	52,500
(3) 賛助会員	120,000	120,000	120,000
2. 雑誌売上収入	222,600	218,400	205,800
3. 広告料	90,000	30,000	60,000
4. 掲載料・別刷り・カラー印刷収入	450,000	150,000	300,000
5. 年会等関係収入	720,000	691,463	520,000
(1) 年会収入	290,000	405,000	350,000
(2) チュートリアル収入	430,000	286,463	170,000
(3) ワークショップ収入	0	0	0
6. 雑収入(著作権料・利息等)	70,000	94,250	70,000
当期収入合計	3,930,100	3,649,113	3,478,300
前期繰越金	4,611,199	4,611,199	5,144,089
収入合計	8,541,299	8,260,312	8,622,389

個人会員の会費納入率を90%として

正会員.....430名(478名×0.9)×5,000円=2,150,000円

学生会員.....21名(23名×0.9)×2,500円=52,500円

賛助会員.....6件×20,000円=120,000円

・2. 雑誌売上収入 団体会員購読料収入.....49部(37件)×6,000円×0.7(マテマティカ手数料)=205,800円

・3. 広告料.....Vol.44No.1&2とVol.44.No.3の2号発行予定として60,000円で算出

・4. 掲載料(ページチャージ)1号につき15万円×2号分=300,000円

2. 支出の部

勘定科目	2014年度予算	2014年度実績	2015年度予算
1. 機関誌関係費	1,570,000	894,841	1,140,000
(1) 印刷費	1,050,000	579,960	800,000
(2) 校正費	150,000	150,000	100,000
(3) 通信・発送費	370,000	164,881	240,000
2. 年会等関係費	400,000	1,042,527	692,000
(1) 年会支出	250,000	812,751	396,000
(2) チュートリアル支出	150,000	229,776	296,000
(3) ワークショップ支出	0	0	0
(4) 共催国際会議支出	0	0	0
3. 管理費	1,103,785	1,051,905	1,160,000
(1) 事務委託費	750,000	750,000	750,000
(2) 消耗品費	120,000	65,317	120,000
(3) 会議費	80,000	91,823	80,000
(4) 雑費	80,000	83,133	80,000
(5) 名簿作成費	0	0	0
(6) 事務合理化費	20,000	7,560	10,000
(7) 選挙費	53,785	54,072	120,000
4. 役員旅費補助	150,000	0	150,000
5. 関連学会協調事業費	80,000	80,000	80,000
(1) 関連学会年会費	80,000	80,000	80,000
(2) 連合大会	0	0	0
6. 学会賞	50,000	46,950	50,000
小計	3,353,785	3,116,223	3,272,000
7. 予備費	5,187,514	5,144,089	5,479,889
当期支出合計	8,541,299	8,260,312	8,751,889

- ・1. 機関紙関係費 印刷費……44巻1&2号と3号の印刷費(1号につき35万円として算出)と、電子ジャーナル作成料(Vol.43, No.1&2&3およびVol.44, No.1&2とNo.3の論文1件の作成料を6,500円として算出)
- ・5. 関連学会協調事業費 関連学会年会費……横断型基幹科学技術研究団体連合年会費5万円, 統計関連学会連合年会費3万円を含む